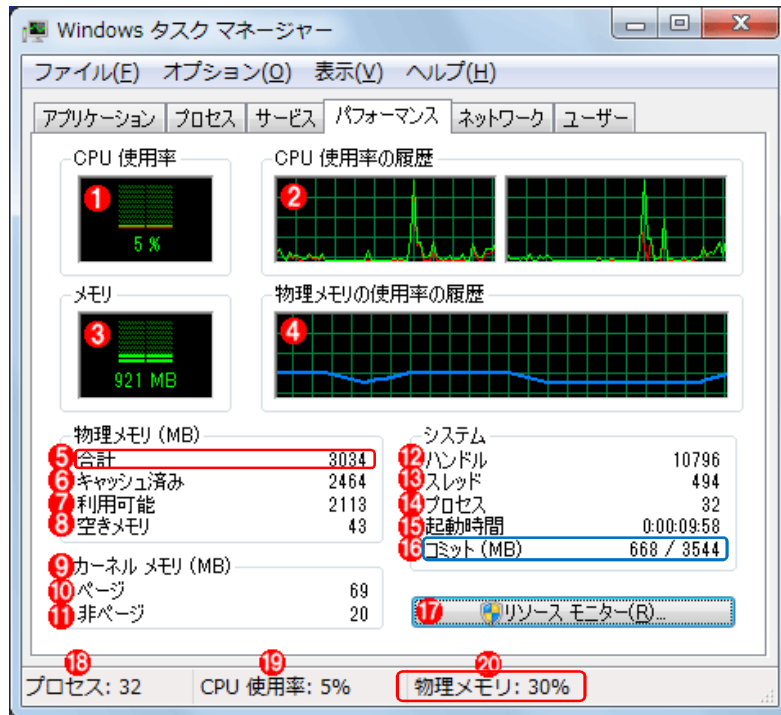


Windows 7でタスクマネージャのパフォーマンス・タブの見方

Windows PCはキーボードで[Ctrl] + [Shift] + [ESC]を押せばタスクマネージャがでますがWindows 7やWindows Server 2008は以前のVistaのタスクマネージャと比べると、少し表示項目が変更され、用語も変更されています。

説明 色がついている項目は特に重要そうな項目です

①	CPU使用率	現在のCPUの利用(負荷)率。コアが複数の場合はすべての平均
②	CPU使用率の履歴	①の履歴グラフ。CPUのコアの数だけ、グラフが表示される
③	メモリ	物理メモリの現在の使用量を表すグラフ
④	物理メモリ使用率の履歴	③の履歴を表すグラフ



⑤	合計	Windows OSが認識している物理メモリサイズ(32bitOSは3.2GBまで)
⑥	キャッシュ済み	キャッシュとして利用されているメモリ領域(データの先読みなど)
⑦	利用可能	キャッシュ済みではあるが、要求されれば空きメモリになるメモリ領域
⑧	空きメモリ	本当に何の用途にも使われていないメモリ領域のサイズ

⑨	カーネルメモリ	OS自身が使用しているメモリの表示
⑩	ページ	スワップアウト(HDDへ移動)可能なカーネルメモリ領域のサイズ
⑪	非ページ	スワップアウト不可能なカーネルメモリ領域のサイズ

⑫	ハンドル	ハンドルの総数。Windows OSでは、すべてハンドルと呼ばれる小さなデータをキーとしてアクセスされる
⑬	スレッド	スレッドの総数。スレッドはプログラムの最小実行単位
⑭	プロセス	システム上のプロセスの総数(複数のスレッドの塊)
⑮	起動時間	PCが起動してからの時間。「日:時:分:秒」で表される
⑯	コミット	左側は使用中の物理メモリ+使用中のページファイル 右側は最大物理メモリ+最大のページファイル

※左側のサイズが⑤を超えると極端にパソコンが遅くなる

⑰	リソース・モニタの起動	各状態などを細かく調査するリソースモニターを起動するためのボタン
⑱	プロセス	これは⑭のプロセス数と同じ
⑲	CPU使用率	これは①のCPU使用率と同じ
⑳	物理メモリ	使用中の物理メモリの割合を表している(③÷⑤×100%)